

る大西君たちと別れて、私達は左俣へ。左俣に入っすぐの3段4mのナメ滝を越し、続く小滝2つを越すと、水はカレてしまった。この先は伏流となって、ゴロ歩きとなってしまふ。

遊行開始後1時間とたたないうちに、沢は源頭の様相を見せる。右岸のカレ沢を利用して、ヤブこぎ開始。15分程で尾根に出る。 (記)

[タイム] 河内川橋(7:10)→馬尾滝出合(7:45)→二俣(8:00)→遊行終了(8:35)→尾根(8:50)

馬尾滝沢(仮称)右俣 1987年8月2日 L

河内川橋から30分程で馬尾滝沢(仮称)出合。ここの出合にかかるのが、30mの馬尾滝。二万五千分の一地図で唯一滝名が記載されているものである。シャワーで中央突破を試みるが、途中よりあきらめて右岸ブッシュに取り付く。水が冷たい。後々その理由がわかる。

25分で二俣となる。和泉さんたちのパーティと別れて、我々は右俣へ進む。

右俣に入ってから5分、6mの滝が行く手をふさいだ。直登は無理なので、左岸のブッシュを利用して登る。登って驚き。滝の落ち口に岩の割れ目があり、水は湧水となって落ちている。そしてその上流はチヨロチヨロ。これで水の冷たい理由がわかった。

それより30分くらいでヤブがかぶさってくる。8:35遊行終了として右手の尾根めざしてヤブをこぐ。

(記)

[タイム] 河内川橋(7:05)→馬尾滝(7:35)→二俣(8:00)→遊行終了(8:35)

